

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091200248		
法人名	社会福祉法人 怡土福祉会		
事業所名	グループホーム 今宿		
所在地	〒819-0161 福岡県福岡市西区今宿東1丁目30番52号 Tel. 092-806-2239		
自己評価作成日	令和05年08月07日	評価結果確定日	令和05年10月07日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	令和 5年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・共同生活の中で一人一人の役割を見つけ日常生活がより楽しく健康で過ごせるよう支援行っています。
 ・四季を通し家庭菜園で様々な野菜作りを行い収穫の楽しみを味わってもらっています。
 ・協力医療機関と連携し利用者の健康管理を行い、様々な関連施設にて状態の変化に合わせて継続した支援を行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

学研都市今宿の閑静な住宅地の一角に6年前に開設した定員18名の地域密着型グループホームである。「地域の中で私らしく」の理念の下、近隣の保育園児が敬老の日に作品を届けてくれたり、保育園の運営推進会議に管理者が参加する等、コロナ禍で交流が難しい中でも工夫しながら地域との関わりを大切にしている。ホーム菜園で取れた季節の野菜を使い、利用者と一緒に作る美味しい料理、毎日の体操や畑仕事、書道クラブ、カラオケ等、活気ある日々の暮らしには、利用者や職員の笑顔がいつもある。2名の管理者を柱として、全員が介護福祉士の資格を持つスキルの高い職員集団のチームワークが良く、利用者のしたいこと、できる事を一緒に探し、一人ひとりのペースを大切にしながら暮らしを実現している。ブログや「グループホーム今宿便り」で利用者の笑顔を届け、「良いホームに入居できて良かった」と、家族から厚い信頼が寄せられている、グループホーム「今宿」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やキッチンに掲示し、スタッフが日常的に目に見えるようにし意識してケアしている。	「地域の中で私らしく」を理念の柱とし、玄関に設置されたタイムカードの横や各ユニットに掲示している。地域交流を意識した取り組みはコロナ禍の中で自粛しているが、利用者一人ひとりのしたい事、できる事を一緒に探し、その人らしい暮らしの実現に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為、交流の機会が減ったが近隣の保育園や教会、地域校区の事業所ネットワーク会議の開催時には参加している。散歩時は挨拶をし交流を図っている。	近隣の保育園の園児が敬老の祝いに作品を届けてくれたり、管理者が保育園の運営推進会議に参加する等、コロナ禍でも出来る交流を継続している。散歩時等、外で会った時には挨拶を交わすように心がけ、地域の一員として日常的な交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2階の地域交流室の貸し出しを行っていたが、現在はコロナ感染予防の為貸し出しはしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、対面での会議は5月より開催し入居者の参加は今後検討する。施設の実施報告ならびに今後の行事計画のお便りを発送しご意見等頂きサービス向上に活かしている。	今年5月より対面での会議を再開し、家族や今宿校区自治協議会会長、いきいきセンター職員の参加を得ている。活動、利用者状況、事故・ヒヤリハット、職員研修、感染対策、地域交流について報告し、参加委員から質問や意見、情報提供を受け、出された意見等を介護サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所更新の際や運営推進会議の際に連絡を取り施設の現状報告を行い、サービスについてのアドバイス等頂いたり連携体制は出来ている。	運営推進会議にいきいきセンター職員の参加がある。事故があれば行政担当窓口へ報告し、疑問点や困難事例について相談する等、連携を図っている。毎年9月に開催される合同運営推進会議に参加して行政担当者と情報交換し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し内部研修を行い、知識を深め身体拘束を行わない環境作り、ケアに取り組んでいる。毎月コールマット使用者に対して必要性を検討し、必要最小限での使用を心掛けている。	身体拘束の職員研修を、内部研修や職員会議の中で年2回以上実施し、職員は身体拘束が利用者にあぼす弊害を理解している。身体拘束検討委員会を設置し、毎月の職員会議の中で身体拘束について確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し内部研修を行っている。内出血など発見した際は、虐待によるものではないか原因を追究し、見過ごさないようにしている。スタッフ間で注意し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に説明を行っている。現在まで成年後見制度を利用している方はいない。スタッフは内部・外部研修を行い、活用時には支援できるようにしている。	成年後見制度を活用する利用者はいないが、今後重要となる制度であるため、学ぶ機会を設け理解を深めている。制度についての資料やパンフレットを用意し、必要な場合には申請機関に相談しながら、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて、入居者や家族に十分に説明を行い、不明な点などないか都度確認し納得、理解されるように図っている。改定などある際は細かく説明を行い理解・納得頂けるよう図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、苦情相談窓口の案内を掲示して契約時に説明している。入居者や家族からの意見は、スタッフ間で話し合い反映できるように努めている。	職員は利用者の意見や要望を聴き取り、家族来訪時や電話で家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営に反映させている。季節毎に「グループホーム今宿便り」を発行し、毎月ブログを更新して利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より意見を出しやすいように、コミュニケーションを取り環境作りに努めている。意見については、会議で話し合い全員で決めている。	毎月17時半から職員全体会議を開催し、その後各ユニットに分かれてフロア会議を行っている。カンファレンスを兼ねた職員会議では、話し易い雰囲気の中で職員の意見や提案が活発に出されている。事前に議題が提示され、職員の意見を表せる環境を整え、出された意見や要望は出来るだけホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と意見交換を行い、環境作りに努めている。コロナ感染予防の為外部研修への参加機会が減少したが、リモートでの参加可能なものには参加を促しスキルアップできるようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、人柄、経験、個人の持つ能力を重視している。定年再雇用制度を取り入れている。	職員の処遇改善に取り組み、定年再雇用制度や充実した休みが取れる勤務体制に取り組み、リフレッシュしながら働ける職場環境の中で職員は定着している。全員が有資格者(介護福祉士)で、経験豊富なベテラン職員が互いの経験を活かし合い、質の高いチーム介護に取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権、その人らしさを考える場を研修や会議、日常的に話しをし、意識できるように努めている。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員会議や研修の中で学ぶ機会を設け、言葉遣いや対応の仕方に注意して、利用者がホームの中で、その人らしく暮らすことが出来るように支援している。また、職員は常に理念を意識して、利用者一人ひとりの「私らしく」を大切に介護の実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染予防の為、外部研修は控えているが内部研修では、テーマに沿って各職員が研修内容を作り発表、研修を構成することで、各自のスキルアップに繋がるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	校区の事業所ネットワークに参加し、各事業所と意見交換や交流を図ることで、サービスの質の向上に繋がるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、入居者からだけでなく家族からも聞き取りを行っている。 不安や要望など情報収集し信頼関係が築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族も交えて面接し、不安や要望などを聞き取っている。またその際に出た要望は、ケアプランに反映し、ケアに反映されるようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から得た情報を分析し、意向なども踏まえ本人にとって最適なサービスを見極められるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や制作を共に行い、分からないことなどを教え合ったり、入居者との関わりを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所持、または電話にて近況の報告を行い、現在の状況を把握して頂いている。なにかあればご家族と相談し解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の情報収集から、今まで付き合いのあった方と今後も関係性を維持できるように、家族に協力をお願いしたり、友人と電話や手紙のやり取りなどを促している。	コロナ対策以前は、利用者の行きたい所や会いたい人等を聞き取り、家族と協力しながら思いの実現に取り組んできた。面会や正月の帰宅についてもコロナ禍の中で出来なかったが、「グループホーム今宿便り」の送付やブログの更新、電話での報告を密に行い、家族の安心に繋げている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の様子を観察し、利用者同士の関係性を把握している。レクリエーションの参加などは、個人の意思を尊重しながらも利用者同士のコミュニケーションが円滑に図れるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時に契約終了後でも何かあれば相談に乗ることを伝えている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を家族の方より伺い、本人との会話などから希望を聞き取り支援に努めている。	職員は利用者とのコミュニケーションを取りながら、利用者の言葉を聞き逃さないよう注意している。職員間で情報を共有し、日常の介護サービスに反映させている。食事でも利用者のペースで食べてもらい、日中の過ごし方も、利用者一人ひとりの希望を尊重しながら、自由に過ごしてもらっている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本氏、家族からの聞き取り、情報を頂きこれまでの暮らしの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や介護記録、ケアプラン等により現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞いたうえで、カンファレンスを行い現状に応じた介護計画の作成に努めている。	担当者が、利用者や家族から事前に収集した情報を担当者会議で挙げてもらい、それらの内容を検討して利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の重度化や状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やモニタリングを通して情報共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があった際は本人や家族の意向・ニーズに沿った支援、サービスの提供に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のドラッグストア・飲食店など地域資源を活用し、豊かな生活が送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前までのかかりつけ医との繋がりを最優先しつつ、連携病院がある事も案内し、契約時に本人・家族に選択していただいている。また、各入居者の現在の情報を提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前に利用者や家族の希望を聴いて話し合い、主治医を決定している。他科受診については家族対応をお願いしているが、緊急時はホーム職員で対応し、母体医療機関と連携しながら、適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時には、入居者の状態、変化などを伝え受診の必要性など相談している。また、連携病院の看護師には、入居者に異変があった際に電話で相談することで医師との連携に協力してもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者と連携を図り情報交換を行っている。病院とも相談し、適切な時期に退院できるよう必要であればPTや管理栄養士等にも意見やアドバイスをもらえる関係作りに努め実践出来ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴う対応を十分に説明し同意を得ている。現在ターミナルケアは行っていないが、できる限りホームで生活していただけるよう支援している。重度化した際は連携病院・施設と相談しながら入院や転居などの支援をしている。	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について、利用者や家族に説明し承諾を得ている。利用者の状態変化や重度化に伴い、家族と密に話し合い、主治医に相談しながら、病院への入院、連携施設への転居も視野に入れ、出来る限りホームで暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応をマニュアル化し、内容の周知・徹底に努めている。また、内部研修などでもシミュレーションをしながら、対応ができる体制づくりを行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間想定それぞれで年に2回火災時の避難訓練を開催している。災害対策マニュアルを作成しており、災害時に対応できるようにしている。また、運営推進会議にて地域への協力をお願いしている。	年2回設備業者の協力を得て、日中・夜間想定避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、非常口、避難経路を確認している。非常時に備えて非常食(3日分)を備蓄し、自家発電機の用意もある。災害時、地域の要支援者5名(保護者同伴)程度をホームで受け入れが可能であることを自治会会長に伝えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者それぞれの生きてきた環境・人格・性格を把握し、尊重されていると本人が思えるような接し方を心がけている。	利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護の在り方を、職員会議や申し送り時に常に話し合い、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせる支援に取り組んでいる。入浴や排泄時には、利用者の羞恥心やプライドに配慮した声掛けや対応を行い、同性介助の希望があればその都度職員を変えて対応している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が難しくなっている入居者に対しても、その方のレベルに合わせ選択しやすいような聞き方や環境作りをし、自己決定し続けられるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースに合わせて、その日・その時の希望に沿って無理強いすることなく支援やケアを行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添えるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの出来る事を把握し、下ごしらえ・味見・片付けなど日常的に参加していただいている。手作り教室などを不定期に開催し利用者でもできるおやつ作り等取り組み思い出作りを行っている。	管理栄養士による献立を基に、菜園で取れた新鮮な野菜を使って、利用者と職員が下拵えや片付け等と一緒に、作って食べる楽しい食事の時間である。かき氷やクッキー、ケーキ等、おやつ作りに挑戦したり、誕生日には食べたい物(ステーキ等)を聞いて提供する等、食を楽しむ支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立を参考にメニューを決めている。食事量はチェック表に毎食記録し摂取状況の確認をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアの声かけを行い、必要に応じ介助を行っている。歯科の往診を受けている方もおり、必要に応じて歯科医師からアドバイスをもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用しながら排泄状況の確認、把握を行っている。およそ三時間おきにトイレの声かけを行うなどして自立に向けた支援に繋げている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、タイミング良く声掛けや誘導を行い、トイレで排泄の支援に取り組んでいる。夜間も自分でトイレに行く利用者が多く、見守りや誘導、ポータブルトイレの設置、パットの交換等、利用者の希望や状態に合わせて柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に食事の中に繊維質の物や乳製品を取り入れている。体操や散歩などで運動を促している。便秘がちな方には水分補給を多めに促したり、腹部マッサージなども行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	習慣になるように入浴日と時間帯は決めている。必要に応じて入浴日以外でも入浴できる様な体制は整えている。	利用者の希望や体調に配慮しながら入浴支援に取り組み、基本は週3回であるが、毎日の入浴も可能である。柚子湯や香りの良い入浴剤を使用して、入浴を楽しめるよう工夫している。入浴は利用者職員がゆっくり会話できる楽しい時間と捉え、コミュニケーションを取りながら、信頼関係を築いている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動的に過ごし昼夜逆転しないよう関わりを持つようにしている。利用者一人一人の体力なども考慮し、適度に休息をとりながら無理のないように過ごせるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際は、薬情で確認を行うように申し送りしている。また、いつでも確認ができるようにカードックスにとじ、変更のあった薬には目印をつけるなどしている。副作用が疑われる時は看護師に相談するなどし、症状の変化に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品については、飴玉や本人の好きだったお菓子など少量預かり適宜食し楽しませている。内服や家族の意向などで提供出来ない方もいる。レクリエーションや散歩など各入居者が気分転換出来るよう支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、外出は行っていないが、散歩や四季を楽しむドライブなどは感染予防に努め極力行っている。	コロナ対策のため、密になる外出や外食は控えてきたが、新型コロナ「5類」移行に伴い、コスモス見学や紅葉狩り、菜の花見物等、人混みを避けてドライブに出かけ、利用者の気分転換を図っている。天気の良い日は、近隣の散歩に出かけたり、畑の草取り等に精を出す等、利用者が外気に触れる支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者数名が少額ではあるが、ご自身で金銭管理をされている。買い物に行った際などに買いたい物を選んで、支払いもご自身で出来るよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方はホームの電話使用し家族への連絡行っている。携帯電話を所持している方が使い方が分からない際には使い方を教えている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるように、テレビや音楽はどちらか一つにし、掲示物の内容も季節を感じられるように配慮している。花や植物などをリビングなどに飾り楽しんでもらえるように支援している。	館内は清掃が行き届き、音や照明、温度や湿度、換気に注意して、利用者が快適に過ごせるように配慮している。各ユニットの壁面には利用者と職員が制作した貼り絵や習字の作品、利用者の笑顔の写真が飾られ、花や植物を置いて季節感も取り入れ、清潔で明るい共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席やソファの場所を工夫し必要に応じて変更している。気の合う方と近くで過ごせるよう座席にも配慮し、穏やかに過ごせるよう努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で、理由を説明して新しい物を買うのではなく、使い慣れた家具や私物を持ってきてもらうようにしている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使い慣れた筆筒や鏡台、仏壇、書道セット、家族の写真等、馴染みの物や大切な物を持ち込んでもらい、利用者が安心して生活できるよう配慮している。また、広い室内は清掃が行き届き、利用者が気持ちよく過ごせる明るい雰囲気の居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、手すりを設置している。居室の場所を迷う方の居室には分かりやすい場所に名前を掲示するなどの支援を行っている。		